

向こう3か月の見通しと 「顕著な大雨に関する気象情報」等

- ・ 向こう3か月（7月～9月）の降水量の見通し
- ・ 過去の大雨事例
- ・ 「顕著な大雨に関する気象情報」について

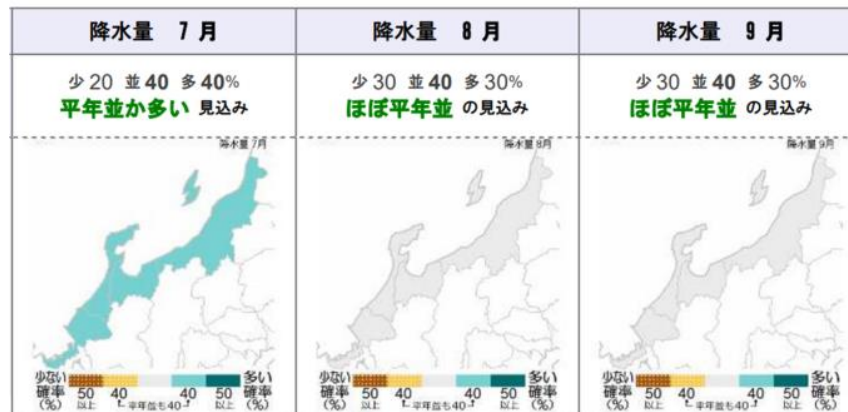
富山地方気象台
防災気象官 木瀬

向こう3か月（7月～9月）の降水量の見通し（3か月予報令和3年6月25日発表）

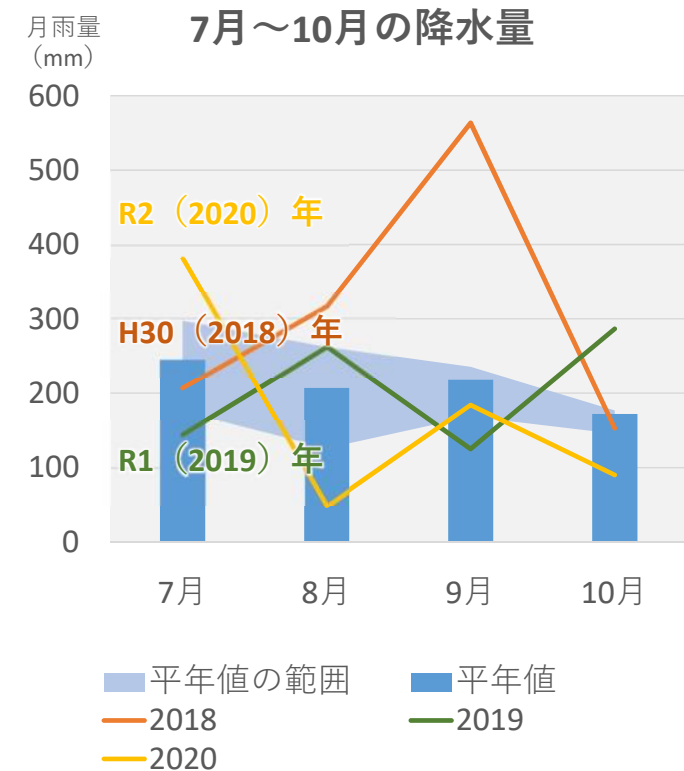
北陸地方の月別の天候

7月	8月	9月
前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	太平洋高気圧に覆われるため、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	天気は数日の周期で変わりますが、太平洋高気圧に覆われる日が多いため、平年に比べて晴れの日が多いでしょう。

北陸地方の月別の降水量



※数値は予想される出現確率です

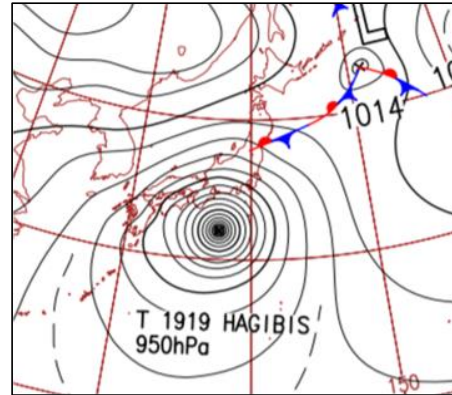


過去の大雨事例：令和元年台風第19号（台風による大雨事例）

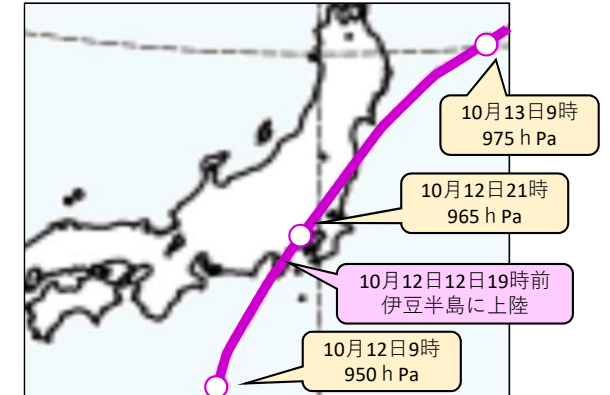
（気象概要）

令和元年10月10日から13日にかけて、台風第19号の接近、上陸等により静岡県や新潟県、関東甲信地方、東北地方を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、非常に強い風を観測しました。

富山県では、10月12日、台風の影響により各地で強風や大雨となり、人的被害や建物等の被害、道路の損壊、住家の浸水、果樹の落下や農業施設の損壊などが生じた。



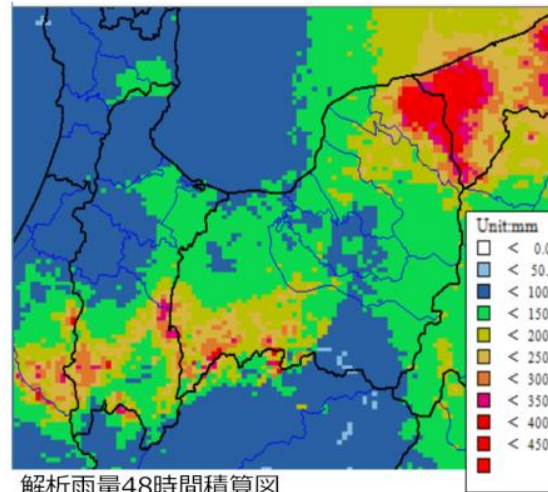
地上天気図（10月12日9時）



台風第19号 経路図（日時、中心気圧（hPa））

（県内の雨と風の様子）

富山県では台風の影響により12日朝から北北東の風が強まり、夜遅くまで続いた。12日の富山市の最大風速は14.8メートル（北）、最大瞬間風速は28.2メートル（北）となった。また、県内各地で大雨となり、朝日町では12日の日雨量が230ミリとなり、統計開始からの極値を更新した。



解析雨量48時間積算図

（期間：10月12日0時～14日0時）

※解析雨量とは、気象レーダーとアメダス等の地上の雨量計により観測されたデータを組み合わせ、1km四方ごとに過去1時間雨量を解析したものの。

観測所名	風向	日最大風速	日最大風速	時分	日最大瞬間風速	日最大瞬間風速
		日平均風速	/風向		/風向	時分
朝日	風向	NNE	NNE		N	
	風速	8.1	14.5	1933	25.1	1810
氷見	風向	NE	NE		NE	
	風速	8.4	13.2	2102	23.0	1432
魚津	風向	NNE	NNE		NE	
	風速	6.5	12.2	2024	23.1	1843
伏木	風向	NNE	NNE		NNE	
	風速	11.0	15.2	1242	24.8	1918
富山	風向	NNE	N		N	
	風速	8.6	14.8	1701	28.2	1642
砺波	風向	NE	NNE		NNE	
	風速	7.2	11.9	1651	20.9	1735
秋ヶ島	風向	NNE	N		N	
	風速	7.1	14.2	1645	21.6	1652
上市	風向	WNW	W		NE	
	風速	1.5	6.1	2320	15.3	2144
南砺高宮	風向	NNE	NNE		NNE	
	風速	5.2	10.3	2141	17.3	1452
八尾	風向	NNW	NNW		NNW	
	風速	3.8	8.6	1914	17.3	1911

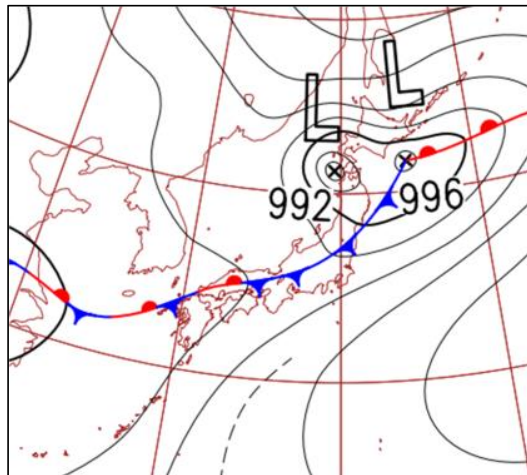
日最大風速・日最大瞬間風速表
（期間：10月12日 単位:m/s）

過去の大雨事例：平成30年7月豪雨（台風・前線による大雨事例）

（気象概要）

7月3日から8日にかけて、台風や前線の影響により各地で大雨となり、岐阜県や福井県では、総降水量（3日12時～8日24時）が7月の月降水量の平常の2倍を超えるなど、記録的な大雨となった。

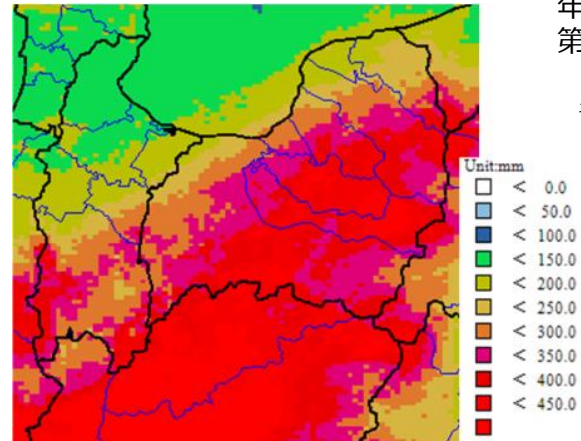
富山県では、この大雨により、床下浸水が発生したほか、土砂災害が発生した。また、鉄道の運休など交通機関にも影響があった。



地上天気図（7月5日9時）

（県内の降水の様子）

富山県では、4日0時の降り始めから8日24時までの総降水量は多い所で400ミリを超える大雨となった。また、7月5日の日降水量は大山、上市、猪谷で200ミリを超え、大山、上市、猪谷、八尾、秋ヶ島では統計開始以来の通年の極値を更新し、南砺高宮、砺波、五箇山でも7月の極値を更新した。



解析雨量120時間積算図

（期間：7月4日0時～8日24時）

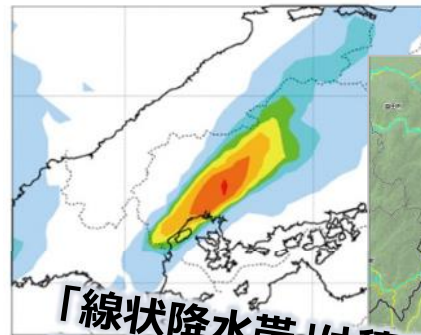
※解析雨量とは、気象レーダーとアメダス等の地上の雨量計により観測されたデータを組み合わせ、1km四方ごとに過去1時間雨量を解析したもの。

（出水概要）

今回の出水では、梅雨前線の影響により、富山県内及び上流域の岐阜県飛騨地方で長期間の降雨となり、神通川（神通川水系）、熊野川（神通川水系）、庄川（庄川水系）及び小矢部川（小矢部川水系）において、氾濫注意水位を超える出水となった。また、神通川（神通大橋）及び庄川（大門）観測所では、平成16年台風23号出水に次ぐ、観測史上第2位の水位を記録した。

参考：富山河川国道事務所作成「平成30年7月豪雨による管内4水系出水状況」

「線状降水帯」による大雨の危機感をお伝えします



「線状降水帯」は積乱雲がほぼ同じ場所で数時間停滞することにより大雨となるもので災害の危険度が急激に高まります

市町村の避難情報や
キキクル（危険度分布）等を確認し
速やかに避難行動をとってください



次のような内容で情報が発表されます

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

Q & A

質問 1) この情報が発表されていない場合は災害は発生しないの？

⇒そうではありません。この情報が発表されていなくても基大な災害が発生するケースもあります。大雨による災害リスクが認められている場所にいらっしゃる方は、市町村から発令されている避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。キキクル（危険度分布）、河川の水位情報等も確認し、自ら避難の判断をしていただくことが重要です。

質問 2) この情報が発表されるまで避難しなくてもよいですか？

⇒そうではありません。大雨による災害リスクが認められている場所にいらっしゃる方は、市町村から発令されている避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。キキクル（危険度分布）、河川の水位情報等も確認し、自ら避難の判断をしていただくことが重要です。

線状降水帯がもたらす降り続く 顕著な大雨への注意喚起

顕著な大雨に関する情報のコンセプトと情報イメージ

令和3年
6月17日～

国土交通省

顕著な大雨に関する情報のコンセプト

● 背景 ～なぜ始めるのか～

毎年のように線状降水帯による顕著な大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じています。この線状降水帯による大雨が、災害発生の危険度の高まりにつながるものとして社会に浸透しつつあり、線状降水帯による大雨が発生している場合は、危機感を高めるためにそれを知らせてほしいという要望があります。

● 位置づけ ～情報のコンセプト～

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。

※ この情報は警戒レベル相当情報を補足する情報です。警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

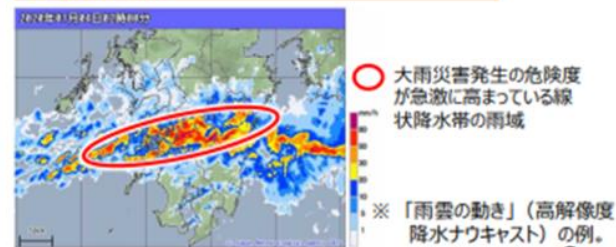
※ この情報により、報道機関や気象キャスター等が「線状降水帯」というキーワードを用いた解説がしやすくなることが考えられます。既存の気象情報も含めて状況を的確にお伝えすることにより、多くの方々に大雨災害に対する危機感をしっかり持っていただくことを期待します。

顕著な大雨に関する情報の例

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続けています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

顕著な大雨に関する情報を補足する図情報の例



※ 線状降水帯がかかる大河川の下流部では今後危険度が高まる可能性があることにも留意する必要がある旨、ホームページ等に解説を記述する。

参照 (5月24日報道発表) 「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて～防災気象情報の伝え方改善～

線状降水帯がもたらす降り続く 顕著な大雨への注意喚起

顕著な大雨に関する情報の発表基準

令和3年
6月17日～



- ▶ 大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説できるように、顕著な大雨に関する情報の客観的な基準を設定。

※ なお、線状降水帯については専門家の間でも様々な定義が使われている。

顕著な大雨に関する情報の発表基準

1. 【雨量】解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
2. 【雨量】1.の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
3. 【雨量】1.の領域内の前3時間積算降水量の最大値が150mm以上
4. 【危険度】1.の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

（内閣府SIPと連携して発表基準を検討）

※ 上記1～4すべての条件を満たした場合に発表する。

※ 再度基準を超過したときに情報発表を抑止する期間は3時間とする。

※ 運用開始後も、利用者からの意見も踏まえつつ、必要に応じて発表条件の見直し、精度検証を実施するとともに、情報の意味の周知徹底・利活用促進を図りながら、継続的に情報改善に努める。

（参考）予報用語における線状降水帯の定義

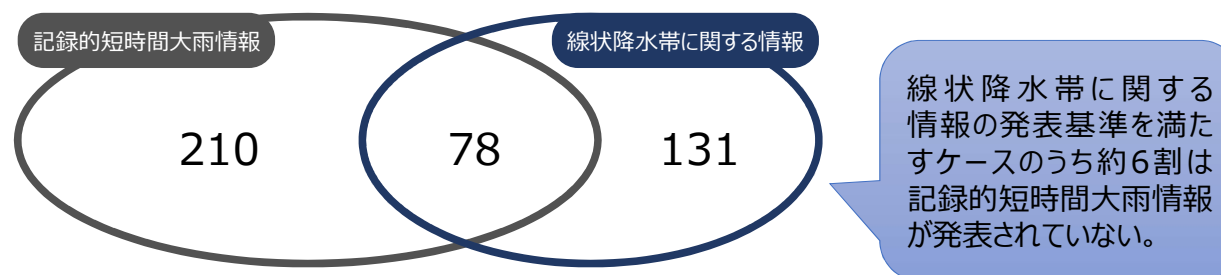
次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう雨域。

参照（5月24日報道発表）「自らの命は自らが守る」社会の構築に向けて～防災気象情報の伝え方改善～

【参考】線状降水帯に関する情報と記録的短時間大雨情報との比較

- 記録的短時間大雨情報の発表基準（前1時間の雨量が100ミリ等に危険度を考慮）に満たなくとも、線状降水帯に関する情報の発表基準（前3時間の雨量が150ミリ等に危険度を考慮）を満たす場合には線状降水帯に関する情報の発表を行う。

線状降水帯に関する情報と記録的短時間大雨情報の関係



- ※ 記録的短時間大雨情報及び線状降水帯に関する情報について、それぞれ対象となる一次細分区域の数を比較した。
- ※ 記録的短時間大雨情報について、前後3時間以内に同じ一次細分区域に発表された事例を1回としてまとめた。
- ※ 上図において重なっている部分は、線状降水帯に関する情報と記録的短時間大雨情報の発表時刻が3時間以内にあることを表している。
- ※ 平成29年7月～令和2年9月までの集計。

（参考）記録的短時間大雨情報の位置付けと発表文例

数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を、観測したり、解析したりしたときに発表する。

この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水災害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味している。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかをキキクル（大雨警報・洪水警報の危険度分布）」で確認していただきたい。

特に土砂災害警戒区域や浸水想定区域など、これらの災害で命に危険が及ぶおそれが認められる場所等にお住まいの方は、地元市町村の避難情報を確認し、避難指示等が発令されている場合には速やかに避難を開始していただきたい。

熊本県記録的短時間大雨情報 第1号
令和2年7月4日03時30分 気象庁発表
3時20分熊本県で記録的短時間大雨
芦北町付近で約110ミリ